

新型コロナウイルス感染症で抑制された社会経済活動は、コロナ禍を乗り越え大きく改善した。当協会は 2024 年 6 月に 40 周年を迎え、より一層活動を活発化し、社会参加機会の拡大に努めた。

超高齢社会を迎え後期高齢者も増え続ける我が国において、高齢者の孤立や孤独を防ぐためにも、社会参加活動など人と人が関わりあう機会を増やす必要がある。また、引き続き平均寿命と健康寿命の差を少しでも縮め、元気に活動できる期間を延ばすことが課題とされている。

このような背景のもと、当協会は、高齢者の社会参加活動を積極的に支援するために、チャリティコンサートをはじめ、「認知症予防活動」（きたざわサロン）等の社会貢献活動、SDG s 協働事業、フレイル防止活動（いきいきシニア塾）等、に取り組んできた。以下、当期事業活動について詳述する。

I 公益事業…高齢者の社会参加支援

1. 社会参加支援事業（定款第 4 条第 1 項第 1 号事業）

（1）社会貢献促進事業

① チャリティコンサート

- ・2025 年 1 月に銀座ブロッサムホールで東京都善意銀行を通じて福祉施設関係者 100 人を招待して、チャリティコンサートを開催し、422 名が参加した。広島支部でも引き続きユリザベト音楽大学との共催で留学生支援のためのチャリティコンサートを開催し 56 名が参加した。

② SDG s 協働事業

- ・8 月に「下水道展『24 東京』」に出展し、協会の P R をした。
- ・10 月に西東京市東小学校で地域生涯学習を開催し、37 名が参加した。神奈川伝統文化こども歳時記で竹とんぼを制作し、多数が参加した。
- ・12 月に大船小学校で動くおもちゃ（おのぼりさん）を作り、約 100 名が参加した。

③ 認知症予防事業

平成 22 年以来毎月 1 回認知症予防事業「きたざわサロン」を開催し（新型コロナウイルスのため 2 年半休止）、今年度は 10 回開催し合計 335 名が参加した。

④ いきいきシニア塾

いきいきと人生を過ごすための情報提供を目的として昨年度から開始した。5月「脳の使い方から読み解く心と病気の関係―認知症の予防―」、7月「相続・贈与と税金」、9月「良い睡眠とは」、11月「がんといわれてもあわてない」、25年1月「きたざわサロンのこれまでと今後」、3月「土光敏夫氏の生き様に学ぶ」を開催し合計200名が参加した。

⑤ 「私の大切な覚書き」(エンディングノート)

万一来に備え、本人の考え方や希望などを記録しておくエンディングノート「私の大切な覚書き」は、今年度200部を超える受注は無く、累計発行は40万部に留まった。

⑥ 寄付

チャリティコンサートでは、100人対し25万円相当の招待寄付を行った。広島支部では例年どおり留学生支援のため、10万円を公益財団法人広島平和文化センターに寄付した。

(2) イベント事業ほか

① イベント事業

幅広いイベントの実施は高齢者の「社会参加と生きがい」「自立と助け合い」につながる重要な行事である。各イベントはコロナ後の行動制限が解除されるなか積極的に実施した。2024年度は関東15、広島29の地域会・同好会でイベントなど(別紙参照)を実施し、延参加人数は約9,962名となった。

② 地域会活動

関東地区は活動地域が広域なため、神奈川会・埼玉会・西東京会・京葉会の4つの地域会を置いて地域に密着したイベント活動を行ってきた。協会40周年にあたり地域会組織の充実に向けて地域会責任者座談会を開催した。

③ 広島支部の主な活動

・二木会は毎月開催し年間延出席者数1,108人、世話人交流会年間延出席者数88人、同好会活動年間5,097名が参加した。

・留学生との交流：留学生と卓球大会を3回開催。6月と11月の定例交流会には合計116人参加した。

・ボランティア活動：4月に桜の木を育てる会に42人、8月から買い物介助ボランティアに30人、11月の「国際フェスタ2024」に42人が参加した。

2. 対外事業（定款第4条第1項第2号事業）

当協会が会員となっている高齢社会 NGO 連絡協議会から紹介された各種セミナー・講演会に参加するとともに、介護問題などに取り組んでいる各種団体や地域活性化に取り組む町内会などと協議を行った。

3. 研修・講座事業（定款第4条第1項第3号事業）

専門家や有識者を講師とする講演会「ふれあいトークサロン」を、3回開催。

5月「今後の人生を生きるために」講師：篠浦伸禎先生。参加者77名。

（いきいきシニア塾と共催での、協会設立40周年記念講演会）

9月「暮らしと環境」講師：松尾友矩東大名誉教授。参加者50名。

25年2月「日本経済の現況とこれからの投資戦略」

講師：三沢清先生。参加者33名。

4. 広報事業（定款第4条第1項第4号事業）

イ. 機関誌「マチュリティ」

外部関連団体、法人・個人会員向けに7月と1月の年2回発行。

120号は創立40周年記念号として2025年1月に発行した。

社会に求められる社会貢献活動やSDGs協働事業の取り組みの状況と成果、ふれあいトークサロンの講話、談話室、ひとこと、イベント日より、各地域会日より等、協会と会員の活動に関する記事を掲載し、外部への広報と会員相互間の啓発および交流をはかった。

ロ. ホームページ

協会の概要、イベントのご案内・活動報告、事業報告等の情報公開、機関誌「マチュリティ」の内容などを掲載している。今年度はホームページの掲載の見直しを進めた。

II 収益事業

1. コンサルティング事業（定款第4条第1項第6号事業）

勤労者向け福祉活動の一環として企画された「福利厚生施設のアウトソーシング」事業に協力し、企業の採用にともない仲介手数料収入を得ている。

III その他事業

1. ニュース発行事業（定款第4条第1項第6号事業）

法人・個人会員（非会員を含む）むけにイベント案内などを行う。

発行頻度は関東・広島とともに年6回（奇数月）となっている。文書による案内をメール配信もしくは郵送するほか、ホームページにも掲載して広くイベントへの参加を呼び掛けている。

2. 親睦事業（定款第4条第1項第5号事業）

イ. 「はつらつふれあいの集い」個人会員親睦会

11月銀座エタニティで40周年記念回を開催し、61名が参加した。カラオケ大会や抽選会などで盛り上がった。

ロ. 広島支部では、8月納涼会（49人参加）、新年懇親会（77人参加）、新入会員の集い（9月と25年3月で合計60人参加）を開催した。

IV 当面の課題…運営基盤の強化

1. 法人会員

2024年度は退会が1社、入会が2社あったため年度末現在の会員数は27社となっている。引続き会員の獲得に取り組む。また現会員への連絡・報告を密にし、一層の支援を得るよう努める。

2. 個人会員

コロナによる行動制限や高齢化に伴う退会者が多く、数年にわたり正会員数の減少が続いていた。40周年にあたり「会員紹介キャンペーン」を関東・広島地区で実施した結果、退会会員を凌駕し対前年比20名の増員となった。年度末現在の会員数は次のとおりである。一般高齢者にも協会の活動を広くPRし、なお一層の会員増を目指す必要がある。

関東地区 536名（うち正会員 362名 家族会員 174名）

広島地区 546名（うち正会員 414名 家族会員 132名）

合計 1,082名（うち正会員 776名 家族会員 306名）

3. 持続可能な協会運営

＊財政基盤の強化（会員増強・寄付金募集・エンディングノートの頒布など）

・寄付金募集：個人会員162名から90万円の寄付を受ける。

（別途チャリティコンサート開催にあたっては法人会員など9社から49万円の寄付を受ける）

・エンディングノートの頒布：大規模受注なし。

＊協会運営の効率化：5年間にわたり経費を削減。

今後とも、社会貢献活動やSDGs活動とフレイル防止活動などを中心として新規法人会員・個人会員の獲得に努めるとともに幅広く外部からも寄付が募れるよう取り組んでいく。また、コンサルティング事業及び「私の大切な覚書き」の頒布や新規事業の開発に引続き積極的に取り組む一方、事務処理の改革など効率的に業務運営を行う。

以上